

ごあいさつ



芳川豊史教授

みなさま、こんにちは。

コロナ禍の中、大変な生活を送られていることと存じます。我々、名古屋大学呼吸器外科教室としまして、日々の生活は勿論のこと、本務である医療におきまして、少しでも社会に貢献できますように、尽力していきたいと思っております。

さて、2019年9月に本教室を預らせていただき、1年4か月が過ぎました。皆様のご協力、ご支援のおかげでつつがなく運営させていただいております。

まず、臨床面ですが、2020年の全身麻酔の総手術数は416例と、これまでで最多となりました。転移性肺腫瘍を含めた肺癌手術数が300例を超えました。皆が力を合わせて医療を行い得た結果と思っております。今後も、呼吸器外科が一つのチームとして機能できるように精進したいと思っております。内容としまして、兄弟教室の、碓氷章彦教授が率いる心臓外科教室の協力を得て拡大手術を行うとともに、近年、増加している Uniport(単項式)胸腔鏡手術(VATS)も、従来の VATS に加えて、症例を選んで科全体で取り組み始めました。ロボット支援下手術(RATS)の方では、80例強の症例を安全に行うだけでなく、4人目のプロクター、8人目のコンソールサージャンの育成、輩出となりました。これからも、「質の高い、そして、やりがいのある」呼吸器外科医療を進めていきたいと思っております。

研究におきましては、「明日の手術に使える手術シミュレーション」を目指し、AMED のメディカル・アーツ(2020-2022)プログラムの援助なども得て、さまざまな方面から継続的に取り組んでおります。また、大学院生も毎年2名程度を迎え入れる体制を整え、「アカデミックサージャン」の養成を進めていきたいと思っております。

教育におきましては、より医学生目線にたった学生教育を行いたいと思っております。なお、名古屋大学医学部の関係部署と協力し、ご遺体を利用した手術トレーニング(CALNA)を定期的に行っており、関連病院の医師を含め、名大呼吸器外科チームとして、呼吸器外科領域の技術伝承のための取り組みを進めております。

肺移植につきましては、名大病院は実施施設ではありません。しかしながら、芳川がこれまでに本邦の肺移植医療に深く携わってきたことから、東海地区の肺移植医療がスムーズに行えるように尽力したいと思っております。現時点では、名古屋大学医学部附属病院に定期通院されている約10名の肺移植後患者さんを複数科の先生方と一緒に診させていただいております。また、慢性呼吸不全で肺移植適応になる可能性のある患者さんをいち早く肺移植実施施設にご紹介できるように、診察や相談を含めお手伝いさせていただいております。

最後になりますが、2019年は5名の若い力が、教室員として我々のチームに加わってくれましたが、

2020年は4名の先生が加わってくれました。東海・中部地区の要の呼吸器外科施設の一つとして、今後も多くの若者が希望をもって、入局してくれるようなチームを、多くの関連病院とタッグを組んで目指していきたいと思います。

私のモットーは、「誠実に医療・医学を行う」ことです。名古屋大学を選んで来られた患者さんに、信頼していただいたうえで、期待にそえるような全人的医療を行うことを目標に、実地臨床のみならず、臨床研究および基礎的な研究を行っていききたいと思います。学問を行う大学という施設の呼吸器外科として、臨床・研究・教育をインタラクティブに行い、国内だけでなく世界に発信できるような、魅力ある教室づくりを今後も一歩ずつ行っていきたいと思っています。今年もなにとぞよろしくお願い申し上げます。